

各学校段階におけるキャリア教育の推進について

追手門学院大学心理学部心理学科 三川 俊樹

1 はじめに

- 1 「すべての不適応の背景には進路の問題がある。21 世紀はキャリアの時代になる。」
- 2 「進路指導やキャリア教育といったって、私たちが社会に出たことがないのに・・・」
- 3 「進路指導にいくら力を入れても、求人が少なく、就職先が決まらない生徒が・・・」

2 学校教育における進路指導と進路相談

- 1 学習指導要領に位置づけられた教育活動としての進路指導
進路指導の6領域：自己理解・進路理解・啓発的経験・**進路相談**・選択決定の援助・進指導
- 2 キャリア教育とキャリアカウンセリング

3 キャリアとは何か

人生・生き方・生きるということ 生涯発達における多様な役割の統合とその連鎖 (D・スーパー)

4 キャリア教育とキャリアカウンセリングの位置づけ

- 1 キャリア教育とは
社会的・職業的自立に向けて、児童生徒一人一人の**キャリア発達**を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育
- 2 **キャリア発達**の支援という視点
発達（発達段階）に沿った**系統性**（計画的・継続的）
- 3 **個別のキャリア発達支援としてのキャリアカウンセリング**（適切なコミュニケーション）

5 キャリア教育の推進のためにーキャリアカウンセリングの充実

- 1 児童生徒一人一人のキャリア発達への支援
 - a 子どもたちのキャリア発達の的確な把握
 - b キャリアカウンセリングの機会の確保と質の向上
- 2 教員の資質の向上と専門的能力を有する教員の養成
 - a **すべての教員がキャリア教育の本質的理解を共有する**
 - b **すべての教員が基本的なキャリアカウンセリングを行うことができるように**
- 3 教員の行うキャリアカウンセリング
 - a 非構造的・日常的／短時間・短期間／主体的 vs 依存的・指示的／個別 vs 集団
 - b 積極的な働きかけ（チャンス／呼び出し／出張 カウンセリング）
- 4 **5つのCo**の重要性
 - a 個別の対応 コミュニケーション、カウンセリング
 - b チーム支援 コーディネーション、コンサルテーション、コラボレーション

以上

I キャリア教育が求められる背景とその基本的な考え方

1 キャリア教育が求められる背景

- ① 少子高齢社会の到来、産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化
- ② 就職・就業をめぐる環境の変化
- ③ 若者の勤労観、職業観や社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質をめぐる課題
- ④ 精神的・社会的自立が遅れ、人間関係をうまく築くことができない、自分で意思決定ができない、自己肯定感を持ってない、将来に希望を持つことができない、進路を選ぼうとしないなど、子どもたちの生活・意識の変容
- ⑤ 高学歴社会におけるモラトリアム傾向が強くなり、進学も就職もしなかったり、進路意識や目的意識が希薄なまま「とりあえず」進学したりする若者の増加

2 「キャリア教育」とは

「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえ、端的には、「**児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育**」とする。

3 基本的な考え方

学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階に応じた小学校段階からの組織的・系統的なキャリア教育の推進が必要

II キャリア教育の意義

- 1 キャリア教育は、一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す視点から、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念と方向性を示すもの
- 2 キャリア教育は、キャリアが子どもたちの発達段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、子どもたちの全人的な成長・発達を促す視点に立った取組を積極的に進めること

III キャリア教育の基本方向と推進方策

1 基本方向

- ① 「働くこと」への関心・意欲の高揚と学習意欲の向上
 - a 職業や進路などキャリアに関する学習と教科・科目の学習との相互補完性の重視
 - b 進路への関心・意欲の高揚と学習の必要性・有用性の認識の向上
- ② 一人一人のキャリア発達への支援
 - a 子どもたちのキャリア発達の的確な把握
 - b キャリア・カウンセリングの機会の確保と質の向上
- ③ 社会人・職業人としての資質・能力を高める指導の充実

- ④ 自立意識の涵養と豊かな人間性の育成
 - a 働くことの意義についての総合的な理解の促進
 - b 早期からの自立意識の涵養と豊かな人間性の育成

2 キャリア教育推進のための方策

- ① 教育課程への位置付けとその工夫
- ② 各発達段階に応じた「能力・態度」の育成を軸とした学習プログラムの開発
- ③ 体験活動等の活用（職場体験、インターンシップ、ボランティア活動、地域の職業調べ、幼小中高大等の多様な学校間連携、上級学校調べ等）
- ④ 社会や経済の仕組みについての現実的理解の促進等
- ⑤ 多様で幅広い他者との人間関係の構築

IV キャリア教育を推進するための条件整備

1 キャリア教育を推進するための学校内の組織、体制づくり

2 教員の資質の向上と専門的能力を有する教員の養成

- ① すべての教員がキャリア教育の本質的理解を共有
- ② すべての教員が基本的なキャリア・カウンセリングを行うことができるよう研修プログラムを開発・普及
- ③ キャリア教育の視点に立ったカリキュラム開発能力や地域社会等とのコーディネート能力を身に付けさせるための教員研修の充実

3 学校外の実教育資源活用にかかるシステムづくり

- ① 職場体験、インターンシップ等の受入れ先の確保など、体験活動推進のための学校、地域、企業、関連行政機関等でのシステムづくり
- ② 地域の産業界等における人材をキャリア・アドバイザーとして確保・活用するためのシステムづくり

4 保護者との連携の推進

- ① 学校からの保護者への積極的な働きかけ
- ② 家庭の役割の自覚
- ③ 保護者の学校教育への積極的な参画

5 関係機関等との連携と社会全体の理解の促進

- ① インターンシップ等を推進していくために、関係機関等が連絡・協議を行う場を国、地方レベルで整備
- ② ハローワーク、大学・専門学校等との連携や経済団体、企業等の理解と協力の推進

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（平成16年1月28日）より